

## 令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学校名	静岡県立小山高等学校 (全日制)	校長名	櫻井 教文
------	----	-----	---------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<b>地域社会と連携した教育活動を推進する。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「部活動、生徒会活動、学校行事などを通して、地域との交流が図られている。」生徒、教員 80%以上</li> <li>地域や外部機関との連携 30回以上</li> </ul>	(管理職) <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域との交流」項目 生徒 79.9% 教員 78.3%</li> <li>「外部連携」項目 51件</li> </ul>	A	小山町や地域・外部機関との連携による教育活動を数多く実施できた。また、小山町等との連携による今後の本校の魅力化について正式な会議体を設け検討を開始した。
ア	<b>生徒の適性や希望に応じたきめ細やかな進路指導を行う。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は進路情報を提供し、進路説明会を開くなど、計画的な指導を行っている。」生徒、保護者 80%以上</li> <li>「学校の進路指導には満足している。」生徒、保護者 85%以上</li> <li>「(3年生進路決定者のみ) 決定した進路先に満足している。」生徒、保護者 95%以上</li> <li>「(教員のみ) 学びの基礎診断、模試を学習指導や進路指導に有効活用した。」教員 80%以上</li> </ul>	(進路課) <ul style="list-style-type: none"> <li>「計画的な指導」項目 生徒 96.2% 保護者 92.4%</li> <li>「進路指導に満足」項目 生徒 94.3% 保護者 83.7%</li> <li>「進路先に満足している」項目 生徒 100.0% 保護者 95.8%</li> <li>「学びの基礎診断活用」項目 教員 81.8%</li> </ul>	B	進路指導への保護者の満足度がわずかに目標を下回ったが、成果目標は概ねクリアすることができた。現時点で、決定した進路先への生徒の満足度は100%を達成した。 保護者への本校の進路指導の理解促進と情報提供（方法・内容）の工夫が必要である。 年内入試を見据えた学校全体での指導体制・環境設計が必要である。
イ	<b>主体的・対話的で深い学びを推進する。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先生方は、わかりやすく学力がつく授業を行っている。」生徒 90%以上</li> <li>「生徒は、授業や課題に主体的に取り組んでいる」生徒、保護者、教員 80%以上</li> <li>「(教員のみ) 総合的な探究の時間の趣旨を理解し、指導することができる。」教員 80%以上</li> </ul>	(教務課) <ul style="list-style-type: none"> <li>「学力がつく授業」項目 生徒 86.6%</li> <li>「授業や課題に主体的」項目 生徒 92.0% 保護者 81.3% 教員 60.9%</li> <li>「総探の趣旨理解と指導」項目 教員 47.8%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修でスクールポリシーを踏まえた授業改善について検討した。今年度の研修内容を踏まえて来年度に授業改善の実践・評価を行いたい。</li> <li>総合的な探究の時間、特に1,2年生の劇については、難しいところが多い。精査する必要がある。</li> </ul>

様式第3号

イ	<p>教育DXを推進する。</p>	<p>・「学校は、ICTの活用等、授業改善に積極的に取り組んでいる。」生徒、保護者、教員85%以上</p>	<p>(教務課) 生徒 88.2% 保護者 88.5% 教員 82.6%</p>	<p>A</p> <p>・ICTは生徒・教員ともに十分に活用できている。Classiとロイロノートの棲み分けもきちんとできている。 ・ICT整備について、環境等体制作りを学校として整えていく必要がある。 (アカウント、機器管理等)</p>
ウ	<p>生徒の主体的な活動を推進する。</p>	<p>・「生徒は、生徒会活動や学校行事に主体的に取り組んでいる。」生徒、教員90%以上 ・「笙陵祭、修学旅行、クロスカントリーなどの学校行事は充実している。」生徒、保護者、教員90%以上 ・「部活動に積極的に取り組んでいる」生徒80%以上 ・「部活動ガイドラインの遵守」教員100%</p>	<p>(生徒課) ・「特別活動に主体的」項目 生徒 95.5% 教員 95.7% ・「学校行事が充実」項目 生徒 94.6% 保護者 97.2% 教員 100.0% ・「部活動に積極的に取り組んでいる」項目 生徒 92.2% ・「部活動ガイドラインの遵守」 教員 82.6%</p>	<p>A</p> <p>評価はA評価ではあるが、協力的な生徒は増えている反面、主体的に動ける生徒は、もっと増やせると感じる。時代の変化もあり、我々教員も細部にわたり生徒に様々なものを与えすぎる傾向があり、生徒が自ら動かなくても情報が手に入るようになってしまっているのも一つのマイナスの要因かもしれない。</p>
ウ	<p>人権意識を涵養し、成長を促す生徒指導を実践する。</p>	<p>・「小山高生は元気な挨拶ができる。」生徒、保護者、教員90%以上 ・「小山高生は正しい身なりや服装が習慣化できている。」生徒、保護者、教員90%以上</p>	<p>(生徒課) ・「元気な挨拶」項目 生徒 87.3% 保護者 85.7% 教員 69.9% ・「正しい身なりや服装」項目 生徒 96.2% 保護者 98.4% 教員 82.6%</p>	<p>B</p> <p>生徒が挨拶をする人や場面を選んでいるような部分がある。挨拶が一つの儀式のような勘違いがあるようなので、もう一度挨拶の意味をしっかりと理解し誰に対しても自然に挨拶ができるような雰囲気づくりを推進したい。身なり服装は、ほぼ良好で目に余るような生徒は見かけなかった。</p>
エ	<p>生徒が安全・安心に登校できる教育環境を整備する。</p>	<p>・「小山高生は安全・安心な学校生活をおくることができている。」生徒、保護者、教員95%以上 ・「小山高生は交通法規を守り、事故防止に努めている。」生徒、教員90%以上 ・「友人や先生など悩みを相談できる人がいる。」生徒90%以上</p>	<p>(生徒課) ・「安全・安心な学校生活」項目 生徒 99.0% 保護者 98.0% 教員 95.7% ・「交通法規遵守」項目 生徒 92.7% 教員 100.0% ・「悩みを相談できる」項目 生徒 92.7%</p>	<p>A</p> <p>今年度の交通事故(自転車通学者)報告は4件でいずれも軽症で済んだことは幸いであった。また、年度末の安心安全アンケートで、周囲の者が見て心配だったという案件があり、仲間同士での言葉遣いや態度について改善を促す必要を感じた。</p>

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備における事故発生0件</li> </ul>	(事務部) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「事故発生」項目 0件</li> </ul>	A	月1回以上の施設設備の点検を実施し、不具合箇所の修繕を計画的に行った。 定期的な施設設備の点検により、安全安心な学校生活を送ることができるよう、校内の老朽箇所等を中心に環境改善を行う。
エ	働きやすい職場環境と法令遵守の姿勢を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「(教員のみ) 教職員間のコミュニケーションは活発であり、チームとして機能している。」教員80%以上</li> <li>・「(教員のみ) お互いのワークライフバランスを尊重しつつ、教育活動に協働して取り組んだ。」教員80%以上</li> </ul>	(管理職) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コミュニケーション」項目 教員78.3%</li> <li>・「ワークライフバランス」項目 教員79.2%</li> </ul>	B	チームとしての一体感を感じて仕事に取り組む教員の割合は増加した。ICTの業務体制について整備した。 学級減による教員減が進む中、外部人材を有効に活用して教育活動に取り組む体制を検討・構築していきたい
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な会計管理の執行と不祥事0件</li> </ul>	(事務部) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「不祥事」項目 0件</li> </ul>	A	引き続き、不適正経理の根絶を目指し、日々のチェック体制を強化する。
エ	地域に開かれた学校を目指して情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保護者、中学生、地域に学校の魅力が伝えられるような情報発信をしている。」保護者80%以上</li> </ul>	(教務課・管理職) 保護者80.2%	A	社会情勢により教育活動の撮影規制がかかり、公式インスタグラムの更新が滞ったが、校内体制を整備し、随時更新を再開することができた。なお、外部の人たちにどの程度伝わっているかが疑問である。 地域と学校が連携する仕組みや機会を増やすことで情報発信にしていくことも必要である。 北駿地区高校再編に係る本校の情報について適切に中学生及びその保護者に提供していきたい。